

令和5年度第1回青梅市美術館運営委員会会議録

令和5年4月26日（水）
美術館研修室
会議時間 14:00～16:00
出席者 委員6名、教育長
生涯学習部長、事務局5名

- 1 開 会
- 2 委嘱状の交付
- 3 教育長あいさつ
- 4 委員長あいさつ
- 5 報告事項
 - (1) 令和4年度事業結果について（資料1） 事務局から説明 〈了承〉
 - ア 展示事業
 - イ 普及事業
 - ウ 市民ギャラリー使用状況
 - エ 入館者数
 - オ 収蔵資料
 - カ 広報、広告
 - キ 施設整備等
 - (2) アンケート結果について（資料2） 事務局から説明 〈了承〉
 - (3) 令和5年度事業予定について（資料3） 事務局から説明 〈了承〉
 - (4) 所蔵作品写真原版作製等に伴う臨時休館について（資料4）
事務局から説明 〈了承〉
 - (5) 公募展ビエンナーレOME入賞作家作品展（アートによるまちづくり推進事業）の開催について（資料5） 事務局から説明 〈了承〉
 - (6) 美術館の空調等設備改修について（資料6）
事務局から説明 〈了承〉
 - (7) その他
- 6 その他
次回委員会開催日程調整
- 7 閉 会

〔主な質疑・応答・意見（報告事項・協議事項について）〕

○令和4年度事業結果とアンケート結果について

（委員）館蔵企画展は非常にユニークで、ただ作品を展示するだけでなく、来館者が興味を持つ企画を行っており、素晴らしかった。

（委員）お気に入りの作品にシールを貼る企画が面白かった。アンケートについて、概ね良かったという記載が多いが、中には厳しい意見もある。対応できるところは改善し、良い美術館にして欲しい。

（委員）美術館でなければ見れない大きさのものを見たり、美術館という空間で絵を見て絵に浸るということはとても大事なことだと思う。

（委員）展覧会の案内チラシは学校に届いているが、置くスペースに置いたきりになっている。可能であればこれとは別に、内容のわかるデータをいただければ、学校から保護者宛にメール配信で周知することができる。そうすることで近隣の子供や保護者等、もっと多くの方に美術に触れていただけたらと思う。

（事務局）チラシやホームページ等については、それぞれ画像の使用許可を全て得て掲載しており、著作権の発生する作品のデータでの提供は難しい。

（委員）予算に対しての目標設定はどうなっているか。来館者の目標人数は達成できているのか。

（事務局）開催の時期や過去の実績をもとに、展覧会毎に目標人数を設定している。基本的に目標は達成している。

（委員）市民ギャラリーの稼働率はどうなっているか。

（事務局）開館日に貸し出しを行っており、昨年度は平時より開館日数が減ったため稼働率も下がっている。ただし、藤本展の開催準備や写真撮影等で使用したため、貸し出し以外の使用日数は多かった。

（委員）SNSはどのように管理しているか。

（事務局）所管課で管理している。市公式のLINEやTwitterにより情報発信しているが、使用の制限があるため多用できない。

（委員）アンケートの設問は毎回同じか。結果を次の企画へどのように活かし活用しているか。

（事務局）設問は概ね同様である。全般的に日本画が見たいという意見が

多い。展示室が狭隘であることが満足度の低さに繋がっている。施設改修によって改善がはかれればバリエーションも増え、満足度につながると思う。

(委員) 市が何を大事にしているのか、今後美術館をどうしていきたいのかが大事なポイントになるだろうと思う。

(委員) SNSについては、学校であれば先生が展覧会に行き美術館へ行ったとクラスLINEなどに発信する方法もあると思う。

(委員) クラブだよりや学校だよりで学校の先生が展覧会に行き来たこと掲載する方法もあると思う。

○令和5年度の事業予定について

(委員) 学校との連携について以前から申し上げているが、進んでいる様子がない。子供たちの体験の場を大人たちが作ることが非常に重要である。時間はかかるが行うべきだと思う。

(事務局) 過去に市内の全小学生に対して夏休みにチラシを持参すれば無料になる事業を実施したが、利用者がほぼなかった。市域が広いため、遠方の小学生は親に連れてきていただかないと自力で来ることは難しい。親も関心が低ければ連れてこないで学校側でも美術館に足を運ぶ機会を考えてほしい。

○所蔵作品写真原版作製等に伴う臨時休館について

(委員) 夏休み期間は休館しているのか。

(事務局) 空調設備の不調等により、令和2年度から休館している。

○公募展ビエンナーレOME入賞作家作品展（アートによるまちづくり推進事業）の開催について

(委員) 参加する2名の作家は決まっているのか。美術館側が選ぶのか。

(事務局) 現在まだ決まっていない。ビエンナーレOME入賞作家の中から2名選出し、企画書を提出いただく。

(委員) アーティストと市民との交流の機会が設けられると良い。

(委員) 入賞作家のその後の展開が見たい。

○美術館の空調等設備改修について

(委員) 青梅市での美術館の位置付けを見直すよい機会だと思う。休館中の美術館としての活動をどのように継続するか考えなければならない。

(事務局) 空調だけではなく、その他の必要な設備についても改修を検討する。またどういったビジョンで改修していくのかというところも併せて検討する必要があると考えている。今後の美術館の運営について、ハードとソフトの両面で考える必要があると認識している。

(委員) 美術館の活動を何らかの形で継続していかなければならない。休館中だからこそアウトリーチで学校や町に出ていくなど展開出来ると思う。

(委員) 内装等についても改修を行うのか。

(事務局) 照明設備の改修状況により、内装の改修も行う可能性がある。

(委員) 収蔵庫が足りていない問題はどうなるのか。

(事務局) 収蔵庫の増設の計画はまだ立っていない。今回の改修工事では美術館の躯体には大きく手を入れないため、収蔵スペースを増やすと展示スペースに影響が出てしまう。委員からの意見を集約し、今後の検討材料にしたい。

(委員) 新たに収蔵庫棟を作り、現在の収蔵庫からそちらに作品を移すことで、空いたスペースを利用してキャパシティを広げるなど考えられる。

(委員) 開館以降、キュービクル(変圧器)を換えていないとすれば、火災や事故の原因になりかねないため、空調以外の電気系統やダクト等の更新も行った方がよい。

(委員) 3年間の休館中に美術館運営委員会は開催するのか。

(事務局) 必要に応じて開催する。

○その他

事務局から現金の亡失事件について説明

—質疑・意見等なし—

閉会